

二〇二三年二月二五日

眺望へあと一段や梅の丘

よう子

天恵か屈むなぞえに露の臺

こすもす

瑞枝いま雫と含む枝垂梅

わかば

饅頭に合格印梅の茶屋

なつき

石室を出づるや否や風花す

せいじ

涅槃図の末席に吾も一衆生

せいじ

甲山烟らしてをる宮焚火

なおこ

梅の茶屋梅の刺繍の小座布団

なつき

風花の乱舞に自若大伽藍

わかば

金色の褪せぬ寝釈迦に堂暗し

小袖

風葬を諾ふやうに蓮骸

うつぎ

齒ぎしりに嘆く鬼あり涅槃図

もとこ

また一人来ては侍りし涅槃図

小袖

水引の掛かる大根や閻魔祭

うつぎ

梅固し人語鳥語もなき山路

もとこ

梅の丘へと御手翳す大観音

ぽんこ

定例WEB句会みの選

畑のどかウインカー無きトラクター

よう子

二〇二三年二月二五日